

## 平成の 30 年間に日本は何をしたのか

1. 中村草田男が「降る雪や明治は遠くになりにはけり」と詠んだのは、昭和 6 年、明治が終わってから約 20 年が経った頃だ。平成 30 年、既にそれよりも 10 年も長い。「昭和は遠くになった」のだ。

2. 昭和から平成に、何が変わったか

- (1) 高度成長から低成長に
- (2) 政治主導から官僚主導に
- (3) 製造業主体から第三次産業中心に
- (4) 若年の時代から高齢化社会に
- (5) 「土地不足人余り」から「土地余り人不足」に
- (6) 東西冷戦から米中競争に
- (7) 活力社会から低欲社会に
- (8) 「想的煽りの世の中」から「嫉妬と勘繰りの世の中」に
- (9) 希望の時代から嫉妬警戒の時代に
- (10) 「大流行」(スポーツ根性・日本万国博・海外旅行) から「くすぐられる」(AKB・クイズ番組) 時代に

3. 「何もしなかった日本」の犯人は誰か

私は 1997~8 年に『平成三十年』を書いた。その第 1 章は「何もしなかった日本」だが、今や「平成 30 年」を迎えると、「何もしなかった日本」よりも何もしていない。

財政再建 — 消費税の引上げも、地方制度改革も進んでいない。

平成の 30 年間は停滞の時代といわざるを得ない。

#### 4. 戦後官僚主導は何をしたか

1974 年頃からはじまった「戦後の官僚主導」は、5つのことをした。

- (1) 東京一極集集中
- (2) 流通の無言化
- (3) 小住宅持家の普及
- (4) 正社員主義（職場単属主義）
- (5) 人生の規格化

官報（官僚とマスコミ）複合体の強圧 —— 昭和 10 年前後と似た世相

#### 5. 日本は三度減ぶ —— 「三度目の日本」への期待

「団塊の後」には、三度目の日本が期待される。

一度目の日本は、明治の日本（1868~1945 年） ……77 年間

二度目の日本は、戦後の日本（1949~2020 年） ……71 年間

三度目の日本は、2025 年から。

- (1) 万国博への期待と不安
- (2) 地方制度の抜本的改革
- (3) 「二つ目の仕事」を拓げる
- (4) 「健全な楽観主義」を広める
- (5) 「楽しい国・日本」 —— 統計に「楽しさ指数」を加える
- (6) 「次世代日本人」の大量許容
- (7) 失敗者に寛容な世の中を —— 運を信じよう！